

米国の農畜産物の需給見通し



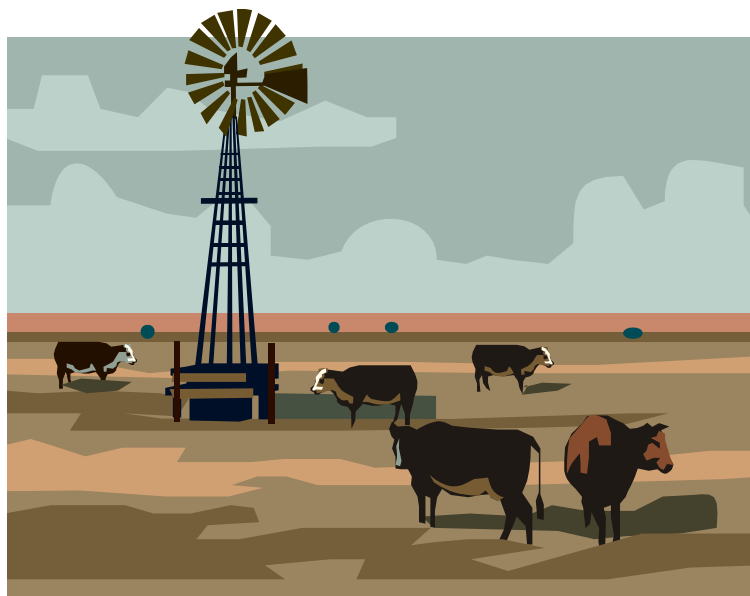
2014年6月27日
(独)農畜産業振興機構
調査情報部 国際調査グループ
山神 堯基

参考:2014年5月末日TTSレート
1米ドル=102.66円

本日の内容

1. 牛肉需給の見通し
2. トウモロコシ需給の見通し
3. 乳製品需給の見通し
4. まとめ

牛肉の需給見通し



日本および米国の肉牛生産の特徴

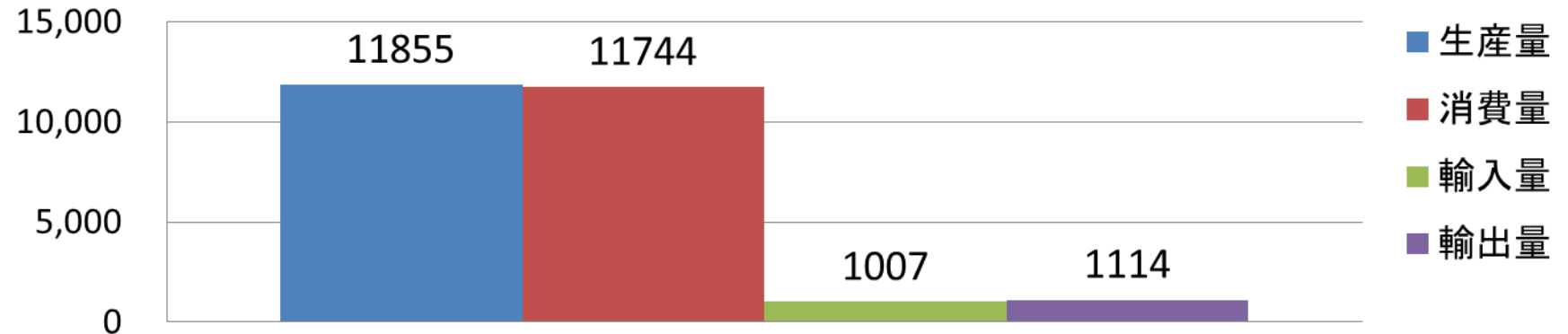
国(生産量)	日本 (約50万トン)	米国 (約1185万トン)
主な品種	黒毛和牛 交雑種 ホルスタイン種	ヘレフォード種 アンガス種 交雑種
出荷月齢	25～34か月	14～22か月
出荷時生体重	725～760kg／頭	500～550kg／頭
枝肉重量	435～480kg／頭	300～330kg／頭
一般的な飼養形態	舎飼い	フィードロット および放牧

資料: USDA、農林水産省の資料を基に機構作成
注: 生産量は枝肉重量ベース

1 米国の需給バランス(2012年)

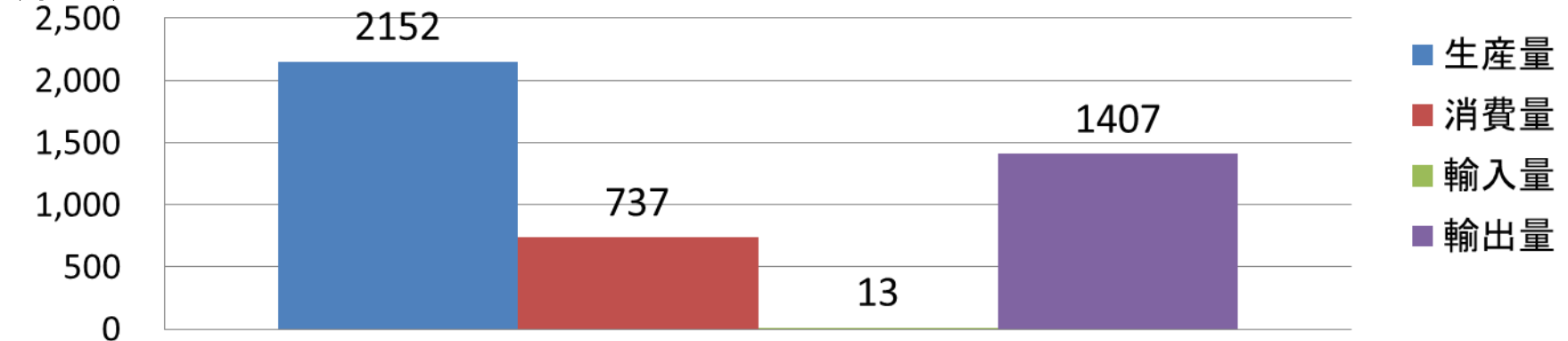
米国(人口約3.1億人)

(千トン)



参考: 豪州(人口約23百万人)

(千トン)



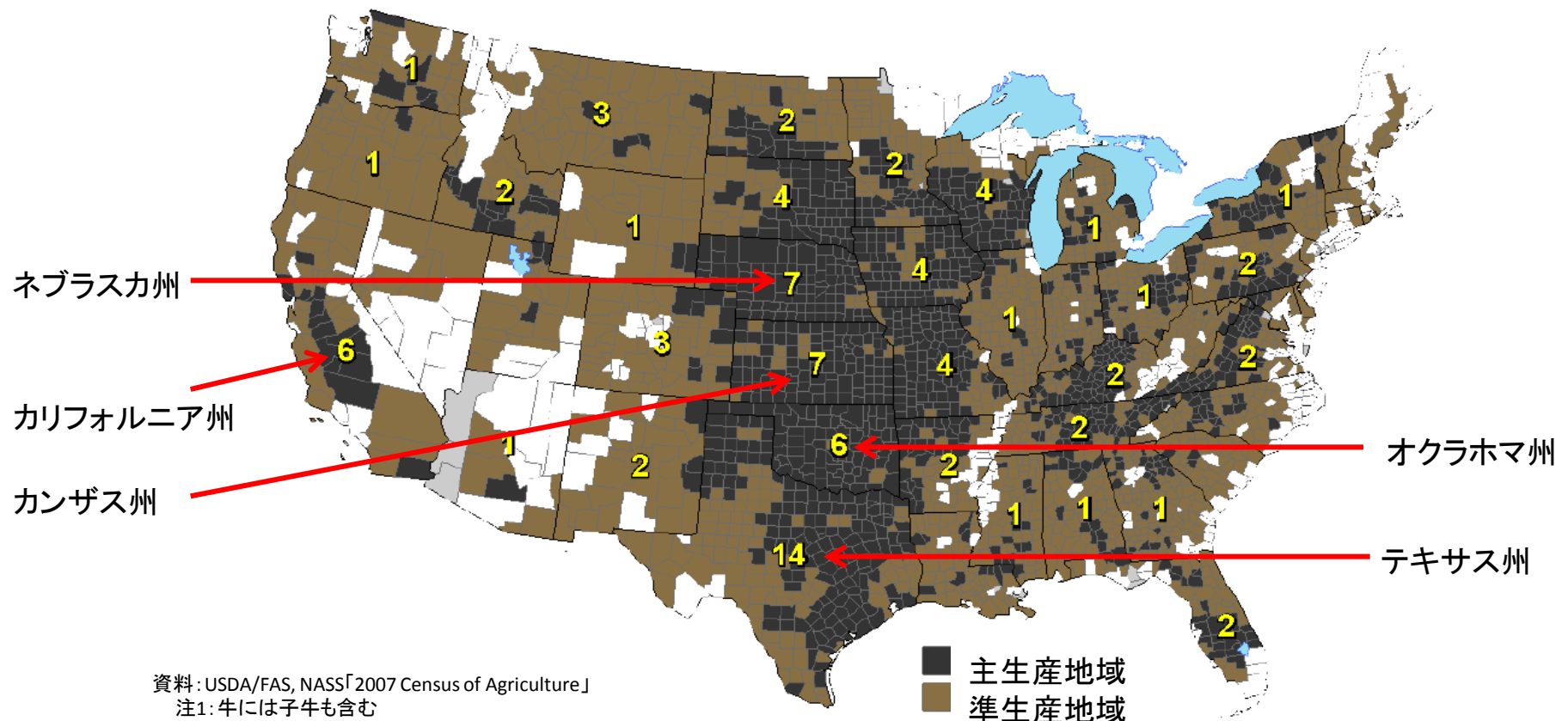
資料: 米国農務省「Livestock and Poultry: World Markets and Trade」

注: 枝肉重量ベース

2 米国における牛(乳用牛含む)の分布

ポイント

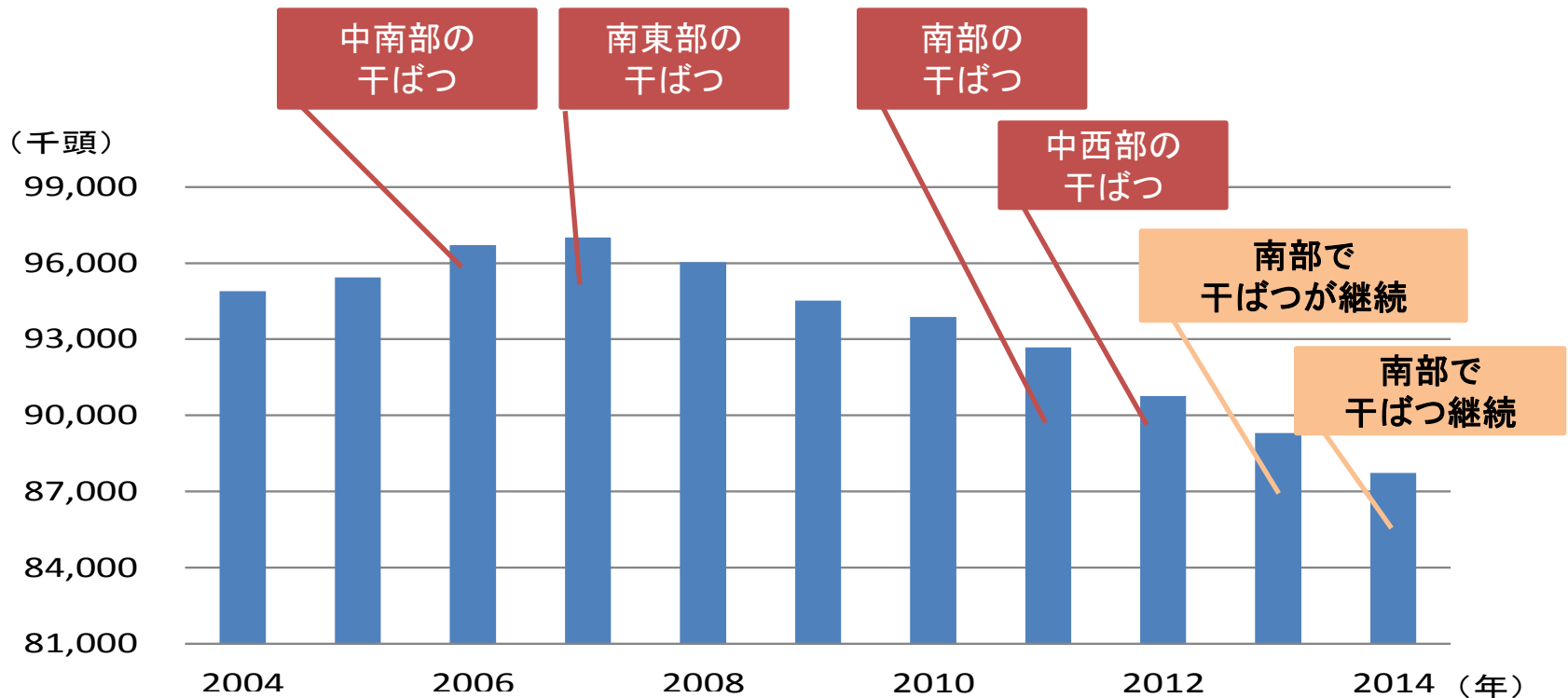
- 米国の主要な牛飼養地域は、肉牛生産州であるテキサス州、ネブラスカ州、カンザス州、全米最大の酪農生産州であるカリフォルニア州。
- テキサス州は全米第1位の飼養頭数を誇り、全米に占める飼養頭数の割合は約14%。



3 牛飼養頭数の推移

ポイント

- 2006年、2007年に肉牛主要生産地である中南部および南東部で発生した干ばつにより、牛飼養頭数は減少。
- 2011年の南部、2012年の中西部で発生した干ばつの影響により、さらに減少傾向が継続。
- 2014年1月1日時点の飼養頭数は、8773万頭と1951年以降、過去最低の水準。

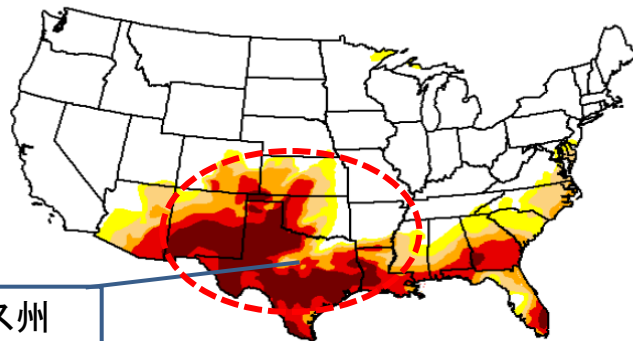


4 主要肉牛生産州における干ばつの状況

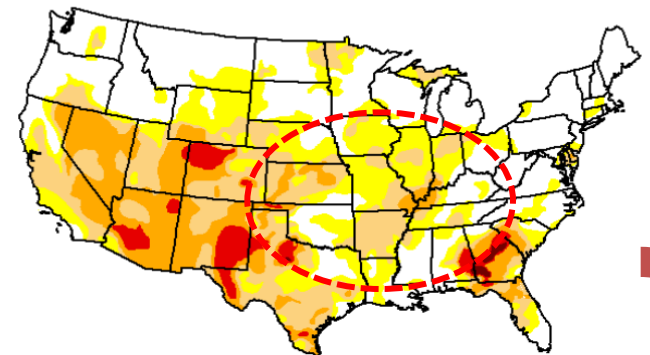
ポイント

- 2014年6月時点では、南部および一部の中西部で干ばつの影響が残る。
- 特に全米最大の牛飼養頭数を誇るテキサス州では、依然、干ばつの影響が強く残っており、地域によっては「異常な干ばつ地域」も存在。

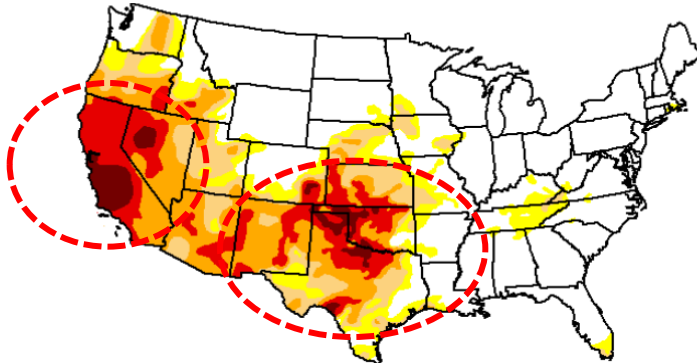
2011年6月（南部の干ばつ）



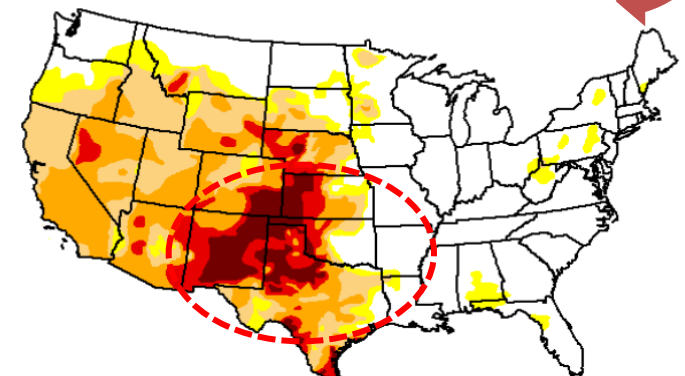
2012年6月（中西部の干ばつ）



2014年6月（南部・西部で干ばつが継続）



2013年6月（南部で干ばつが継続）



■ 異常乾燥 ■ 干ばつ ■ 深刻な干ばつ ■ 特に深刻な干ばつ ■ 異常な干ばつ

資料: Drought monitor

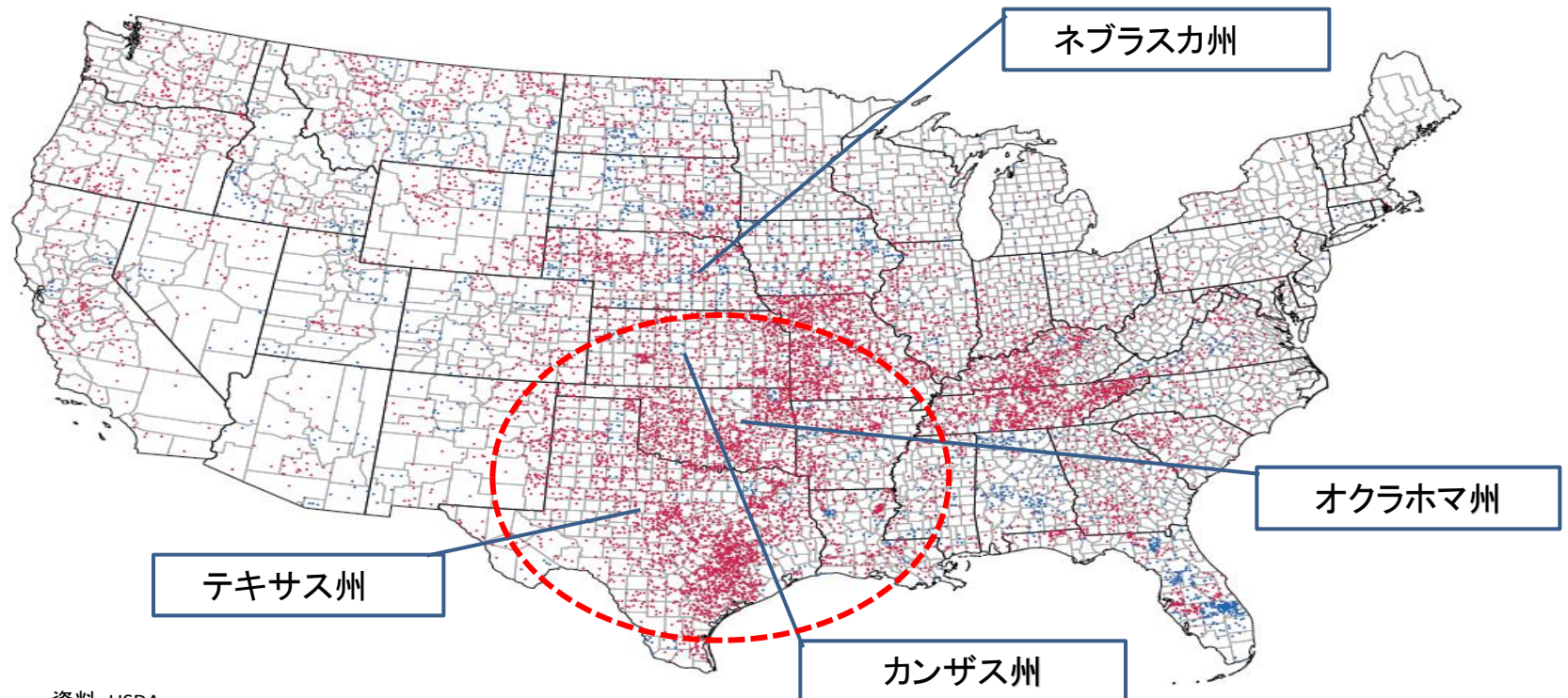
5 肉牛頭数の減少状況

ポイント

- 2007年と2012年の肉牛飼養頭数を比較すると、干ばつが深刻な主要生産州(テキサス州、ネブラスカ州、カンザス州)で減少が大きく目立つ状況。

注1: 赤色の箇所は減少を示す

注2: 青色の箇所は増加を示す

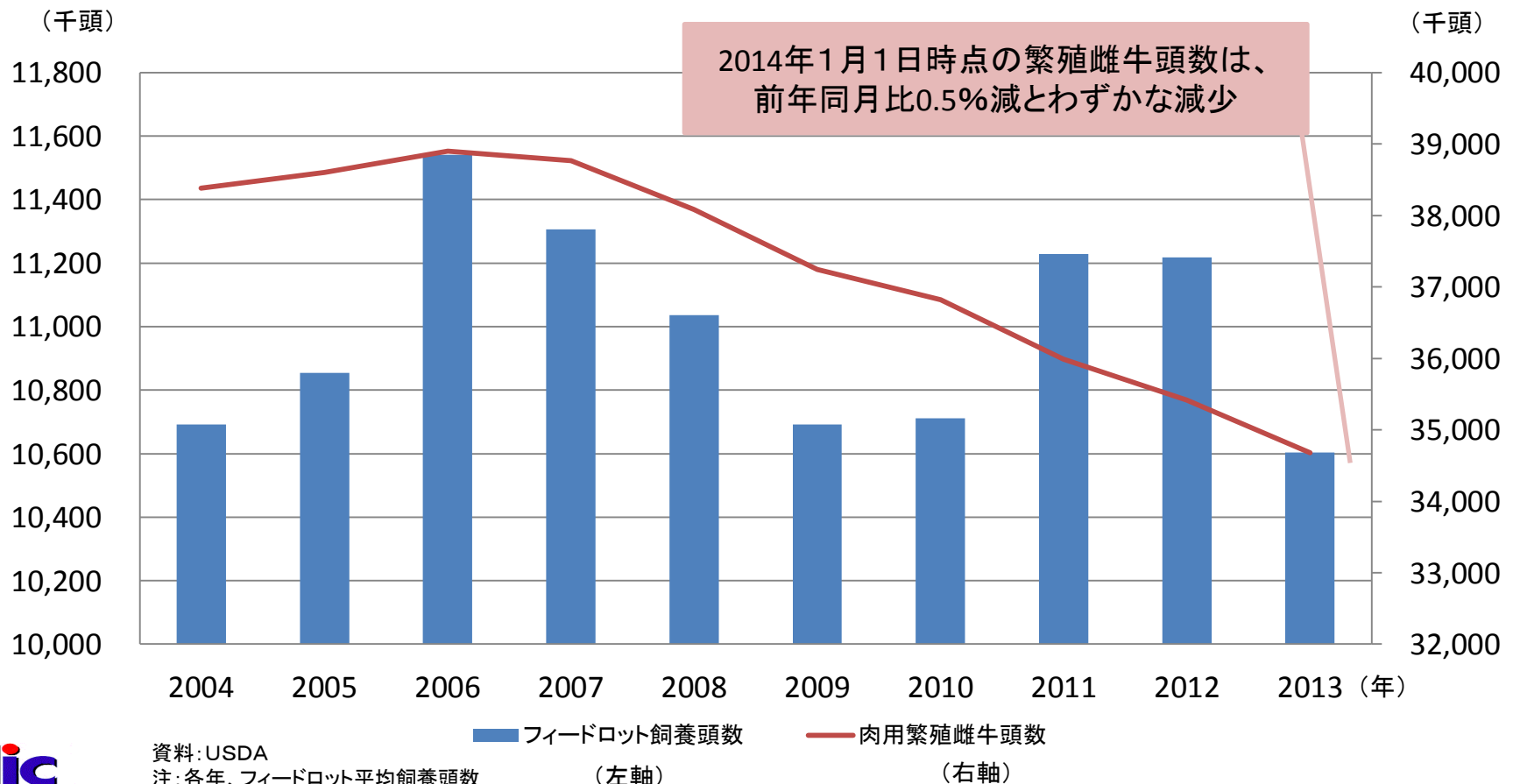


資料: USDA

6 フィードロットでの牛飼養頭数の推移

ポイント

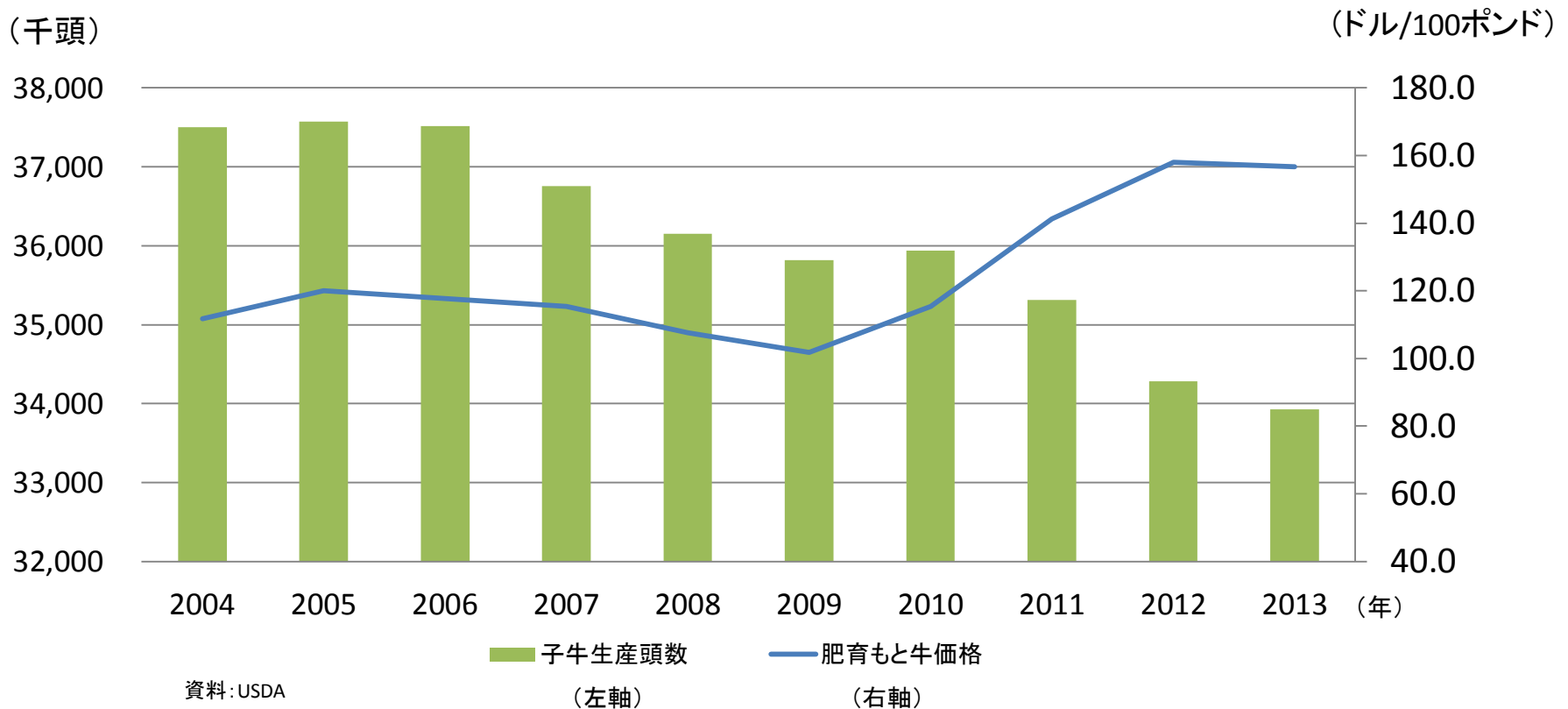
- フィードロット飼養頭数は、2009年、2010年と低水準を記録。
- 2013年のフィードロット飼養頭数は、繁殖雌牛頭数減による肥育もと牛頭数の減少を背景に、前年比5.5%減の1060万頭と2009年を下回る水準。



7 子牛生産頭数および肥育もと牛価格の推移

ポイント

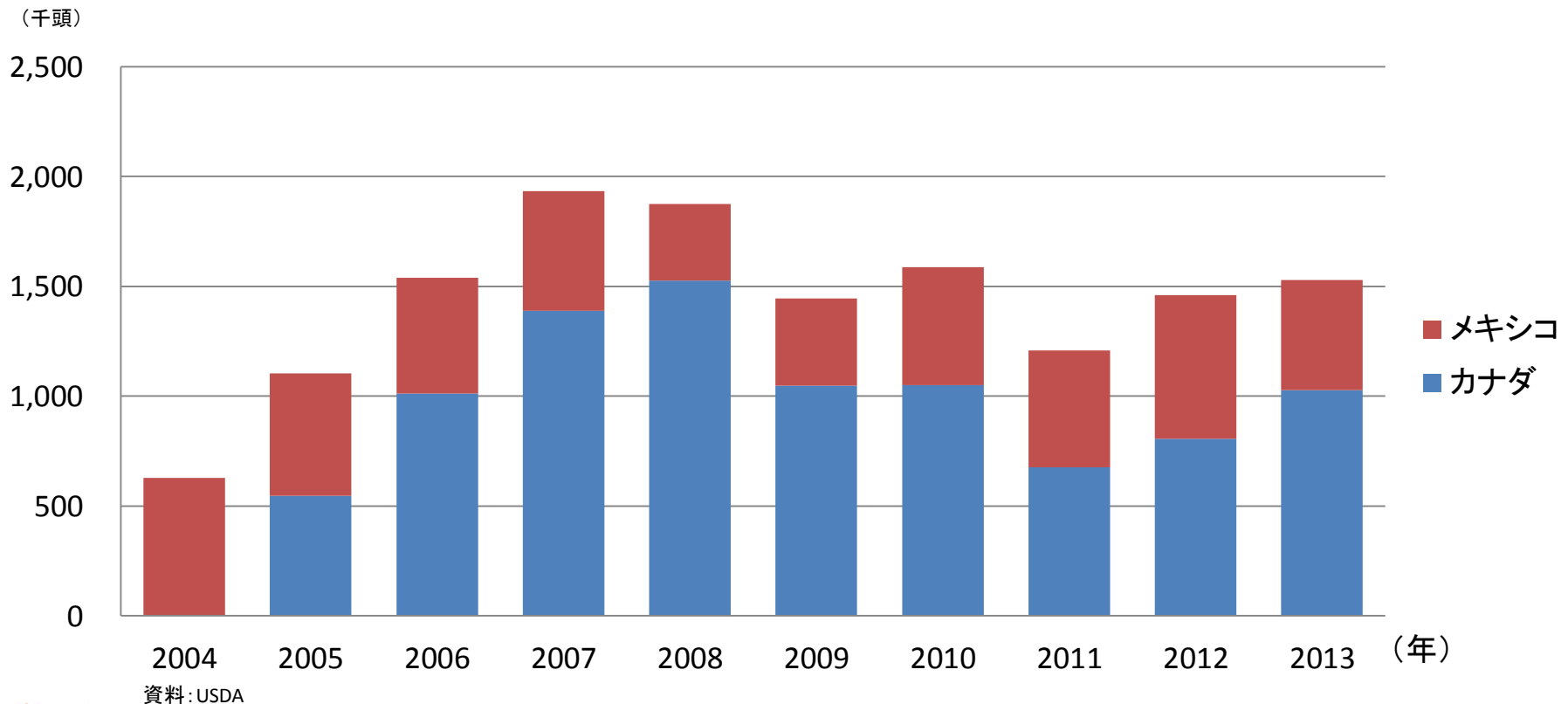
- 子牛生産頭数は、2007年以降、おおむね減少傾向で推移。
- 肥育もと牛価格は、子牛頭数の減少を受け、2009年以降、上昇。2012年に過去最高を記録し、その後も高水準で推移。



8 生体牛輸入頭数の推移

ポイント

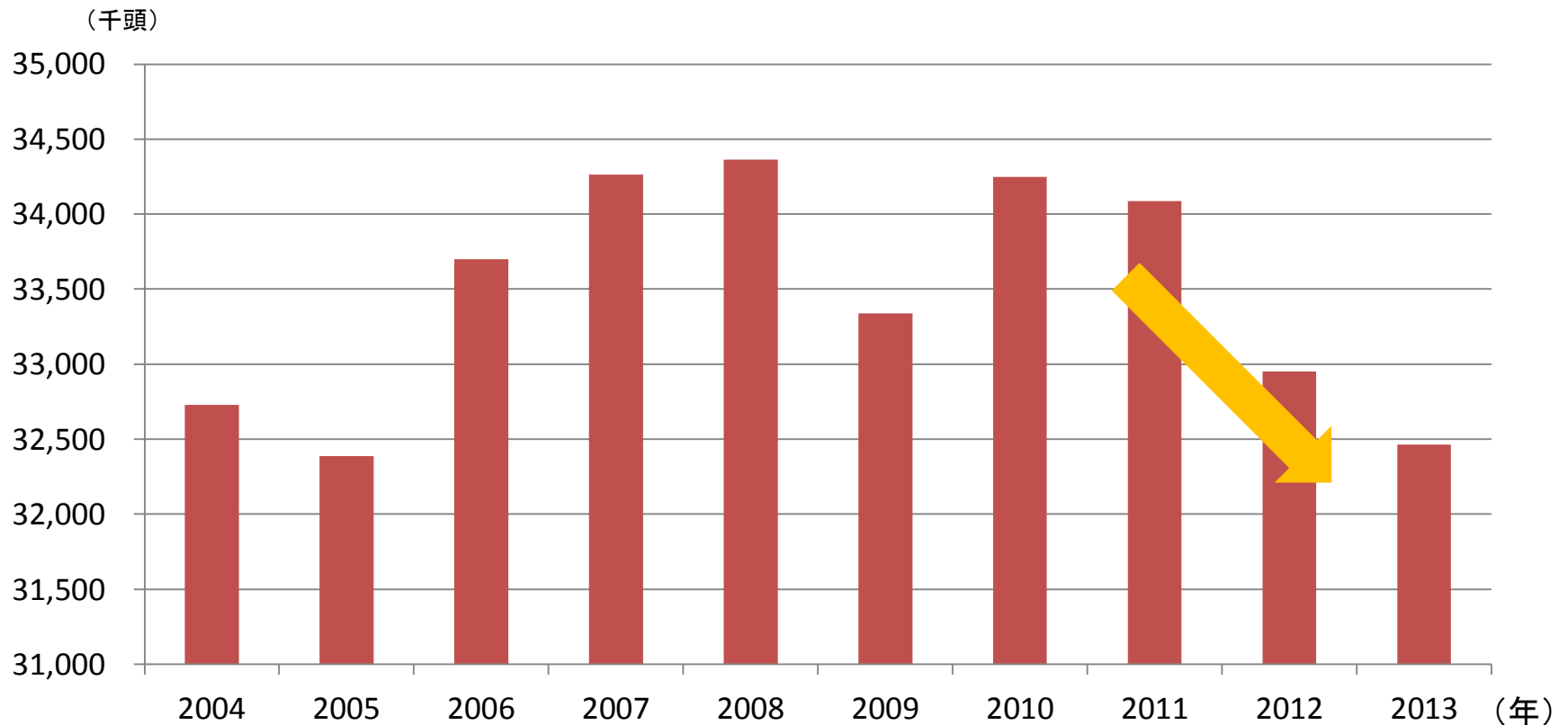
- 生体牛の輸入頭数は、米国での肥育もと牛の減少を背景に、2011年以降、おおむね増加傾向で推移。
- 2013年の生体牛輸入頭数は、メキシコからの輸入頭数が減少したものの、カナダからの増加により、前年比4.6%増とやや増加。



9 と畜頭数の推移

ポイント

- と畜頭数は、牛飼養頭数の減少を受け、2010年以降、減少傾向で推移。
- 特に牛群再構築の動きから肉用繁殖雌牛のと畜が減少。

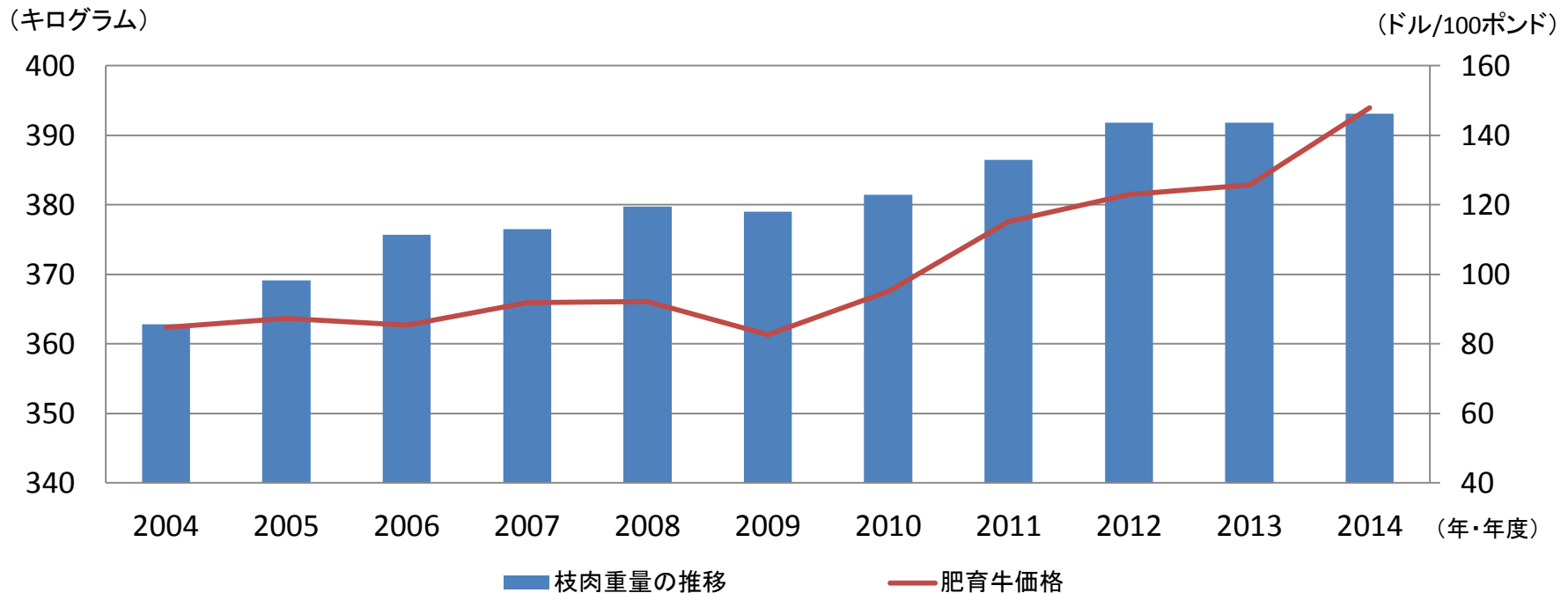


資料: USDA
注: 子牛を除く

10 枝肉重量の推移

ポイント

- と畜頭数が減少する中、1頭当たりの枝肉重量(去勢牛)は、肥育牛価格の上昇により、増加傾向で推移。
- 2014年1月～4月までの平均枝肉重量は、肥育牛価格の上昇に加え、トウモロコシ価格の下落により、前年のを約1キログラム上回る状況。



資料: USDA

注1: 2014年は4月までの平均重量

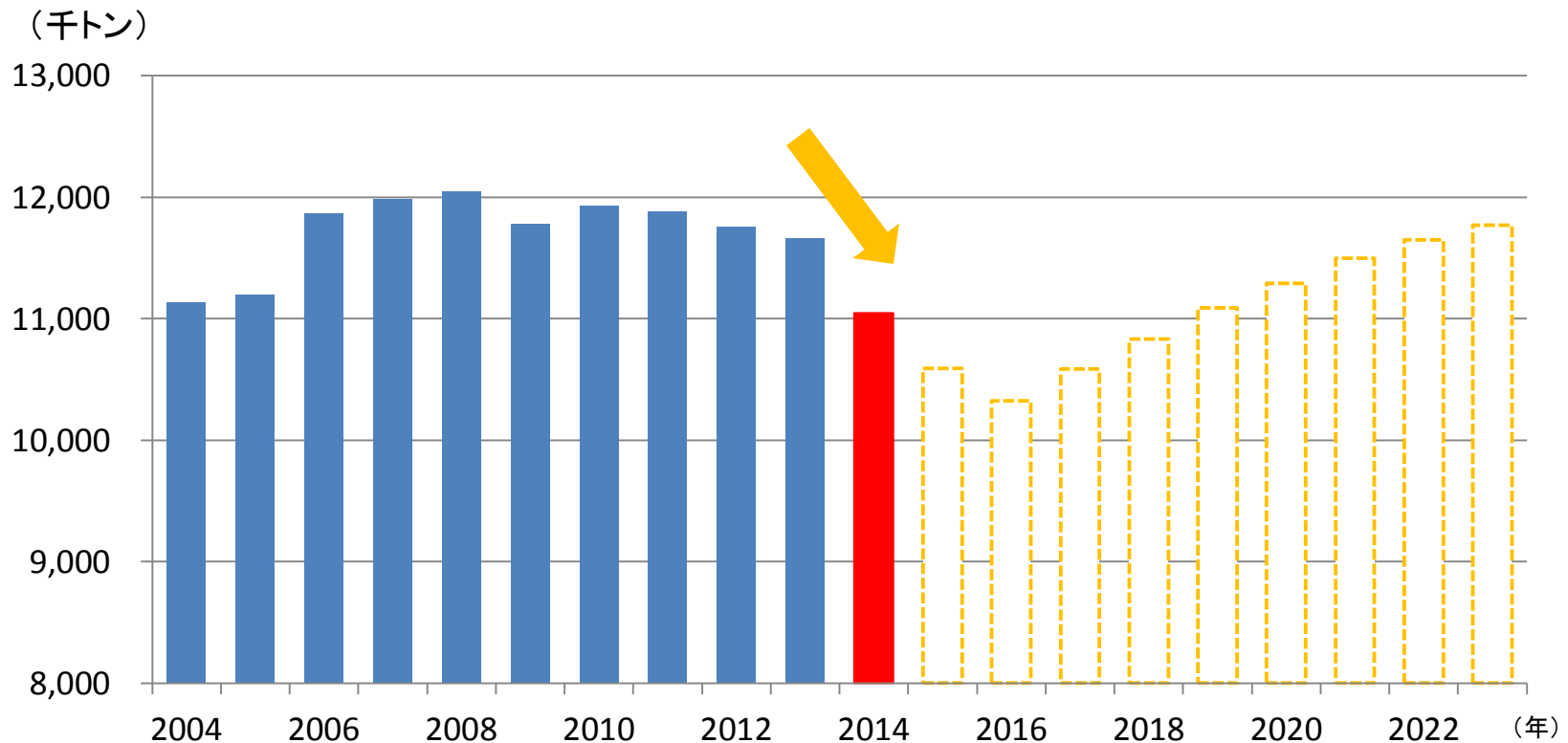
注2: 2014年は5月までの平均価格

注3: 枝肉重量は、穀物年度(9～翌8月)で集計

11 牛肉生産量の見通し(2014年2月USDA公表)

ポイント

- 牛肉生産量の見通しでは、2014年は前年比5.3%減の1097万トンと、2004年以降、最低数量と予測。
- 2015年の牛肉生産量は、同3.4%減の1059万トンと見込んでおり、減産傾向が継続。
- 2017年以降は、放牧環境の回復により牛群再構築が進むと見込まれ、増産に転じるとの予測。



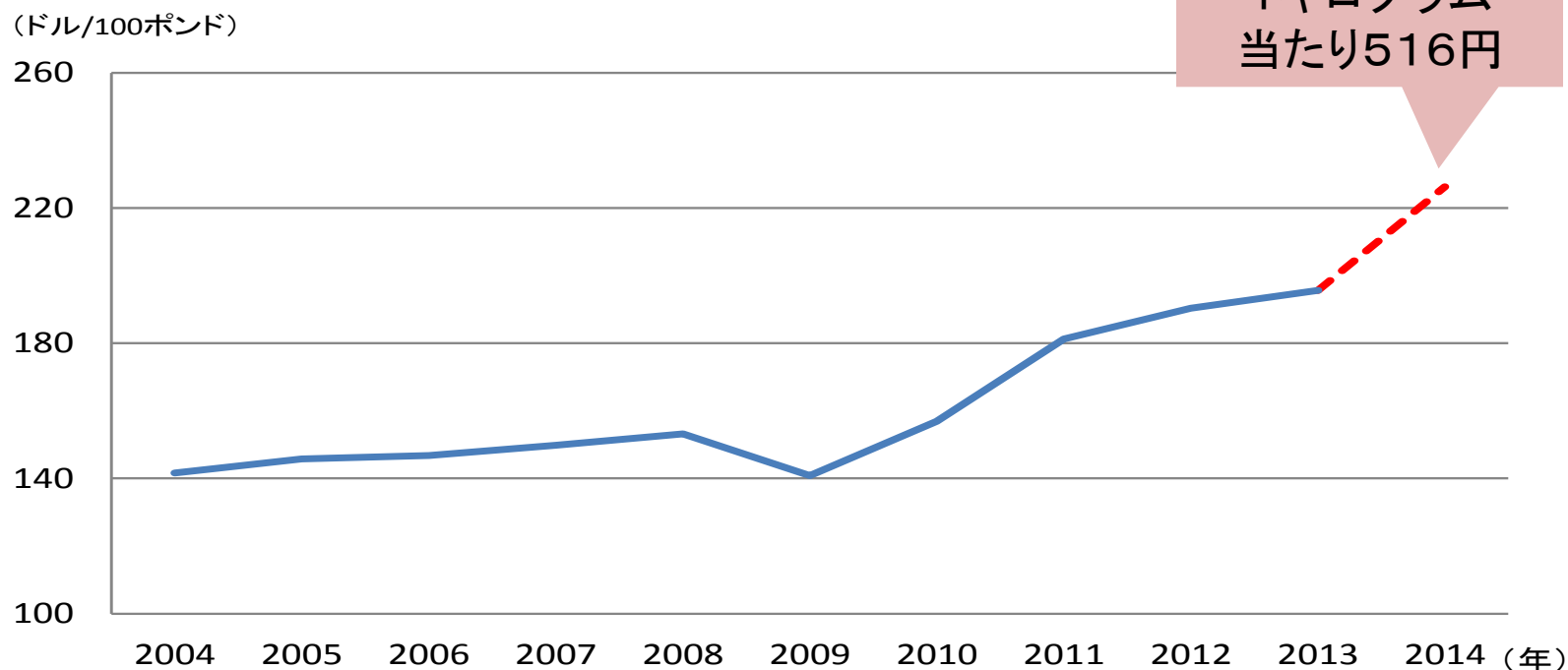
資料: USDA

注: 2014年は見込み、2015年以降は予測値

12 牛枝肉卸売価格の推移

ポイント

- 米国内の枝肉卸売価格は、牛肉生産量の減少や海外需要の増加により、2009年以降、高値で推移。
- 2014年1～5月までの枝肉平均卸売価格は、100ポンド当たり226ドル(516円/キログラム)と過去最高値。



資料: USDA

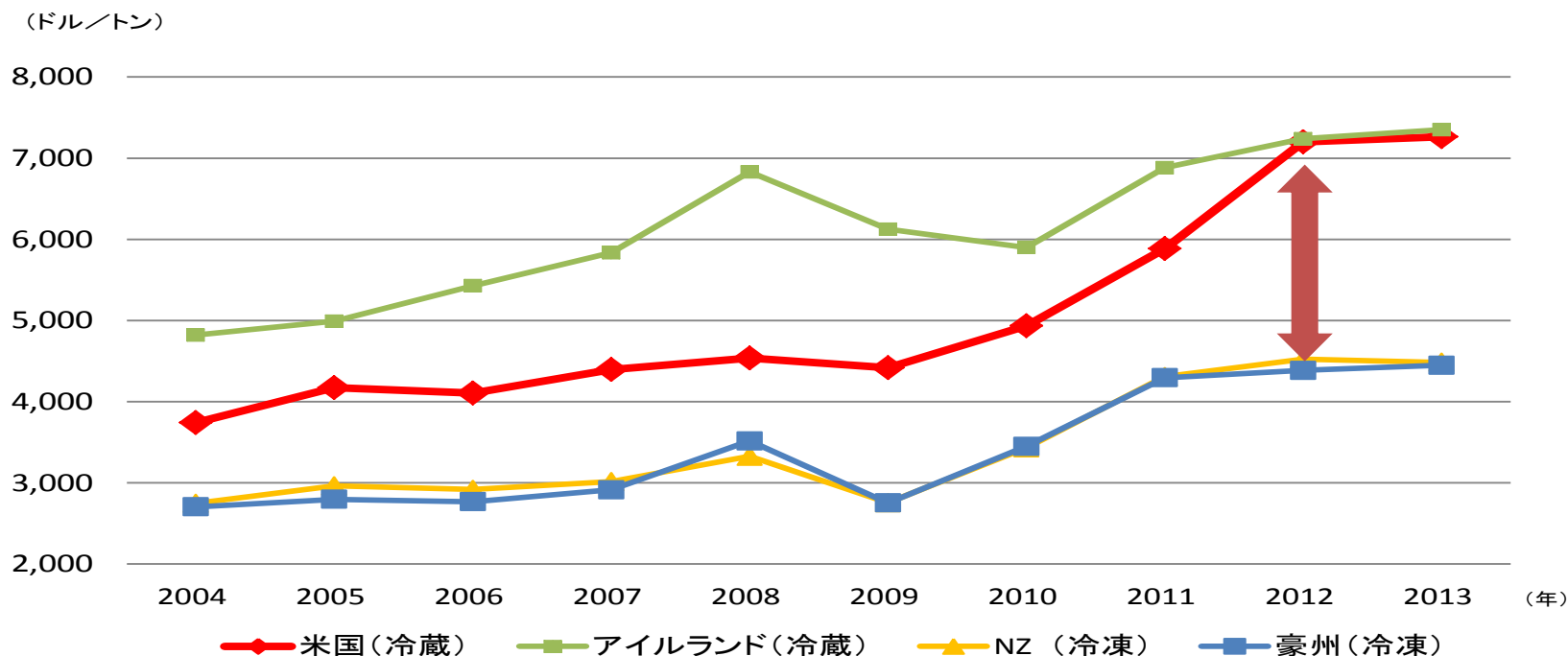
注1: カットアウトバリュー価格

注2: 2014年の価格は、2014年1～5月までの平均価格

13 米国産牛肉の輸出価格の推移

ポイント

- 米国産牛肉の輸出価格は、米国内の牛肉価格の上昇や海外需要の増加により、2009年以降、高値で推移し、EU(アイルランド)と同水準。
- 米国産牛肉の輸出価格は、主にひき材向けである豪州・NZの牛肉輸出価格(米国向け)と大きく乖離。



資料: GTI「Global Trade Atlas」

注1: HSコード0201(米国・アイルランド)

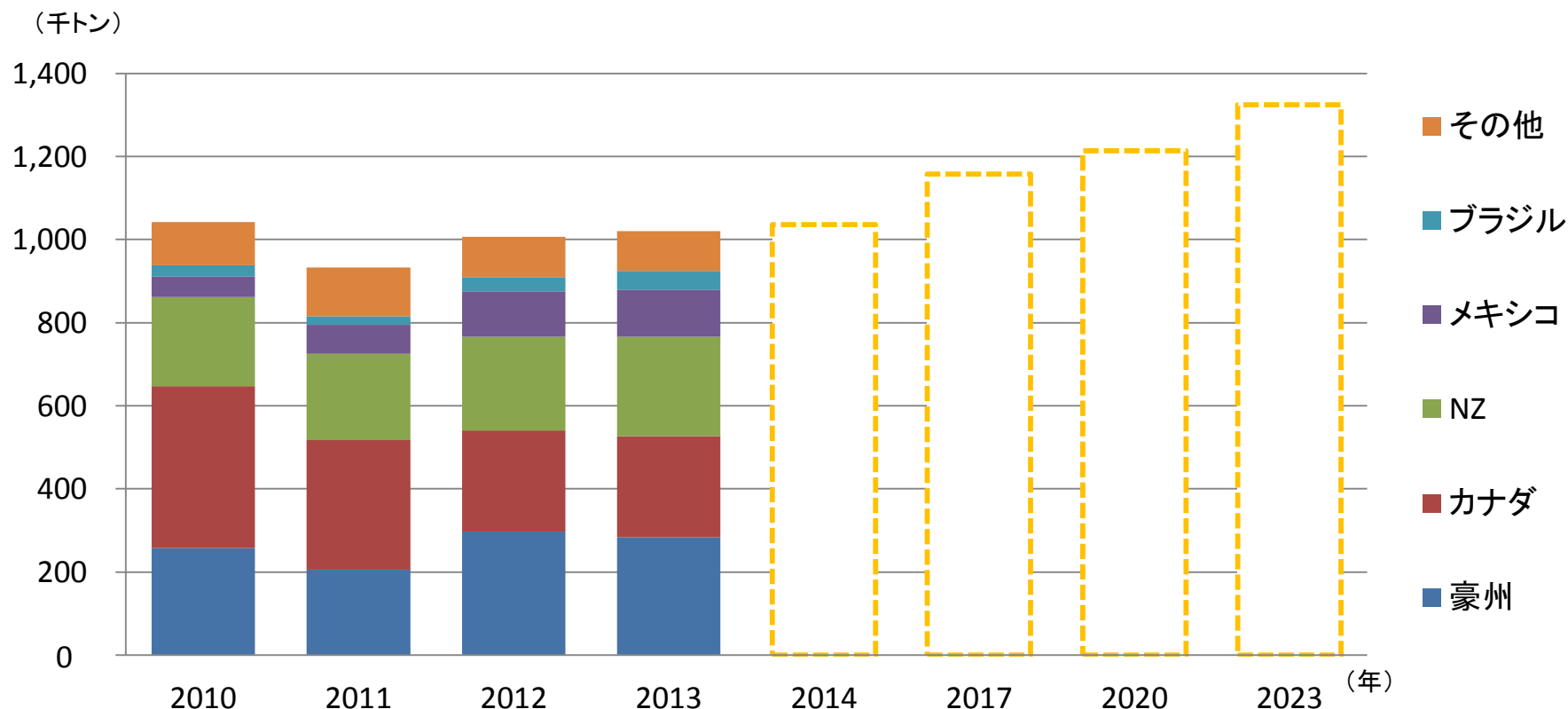
注2: HSコード0202(豪、NZ)

注3: FOB価格

14 牛肉輸入量の見通し(2014年2月USDA公表)

ポイント

- 2014年の牛肉輸入量は、生産量の減少見込により低級部位の供給不足に加え、堅調なひき材向けの需要により増加。
- 長期的なトレンドでは、より安価なひき材向けの供給量の不足が続くとの見通し。



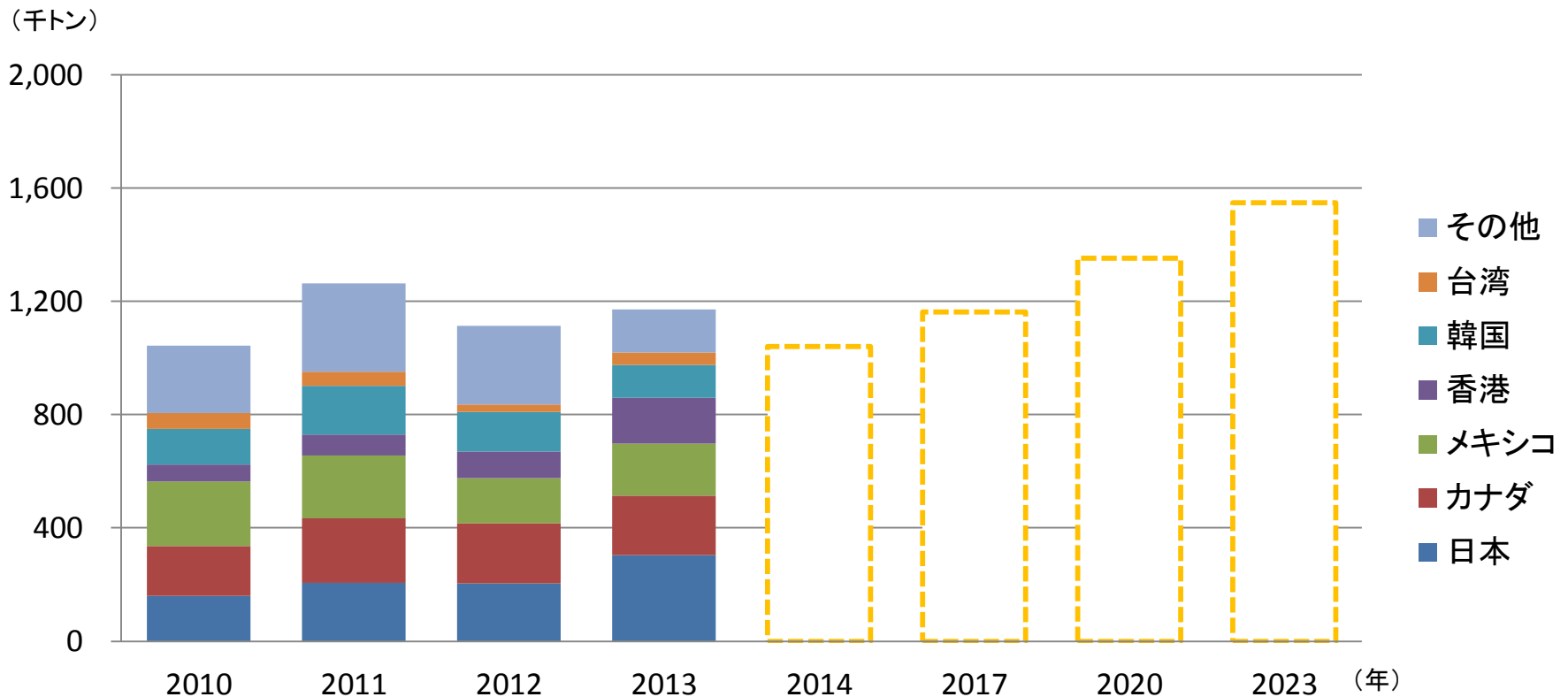
資料: USDA

注: 2014年は見込み、2015年以降は予測値

15 牛肉輸出量の見通し(2014年2月USDA公表)

ポイント

- 2014年の牛肉輸出量は、牛肉生産量の減少見込みから、前年比6.4%減の104万トンとかなりの程度減少の見通し。
- 長期的なトレンドでは、2015年以降は新興国などの海外からの高級部位需要の高まりを背景に増加の見通し。

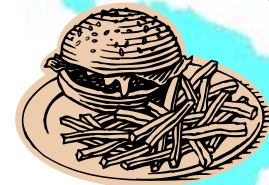


資料: USDA

注: 2014年は見込み、2015年以降は予測値

つまり・・・今後とも 米国は牛肉輸出国であり、牛肉輸入国

高価格部位を日本向けに輸出



ハンバーガーの原料は、
低価格部位を豪州やNZから輸入

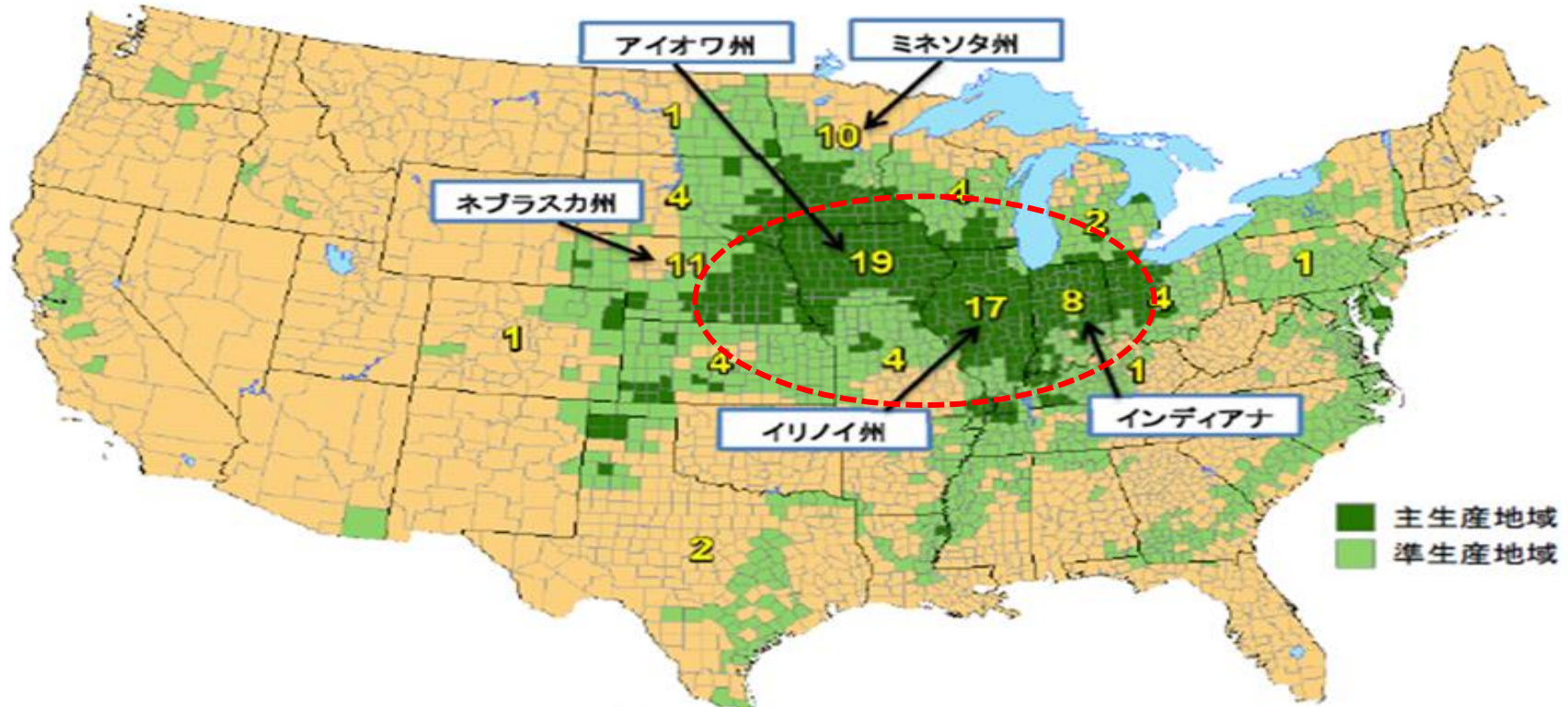
トウモロコシ需給の見通し



1 トウモロコシの主要生産州

ポイント

- 米国の主要なトウモロコシの生産地域は、アイオワ州、イリノイ州、ネブラスカ州、ミネソタ州、インディアナ州などの中西部に集中。
- これら主要5州の生産量は、全米生産量の約65%を占める。



資料: USDA/FAS

注1: 2007年

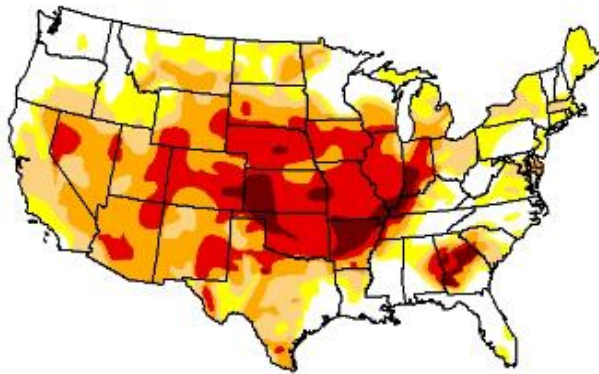
注2: 黄色の数値は各州のトウモロコシ生産の全米シェア (%)

2 中西部の干ばつ状況

ポイント

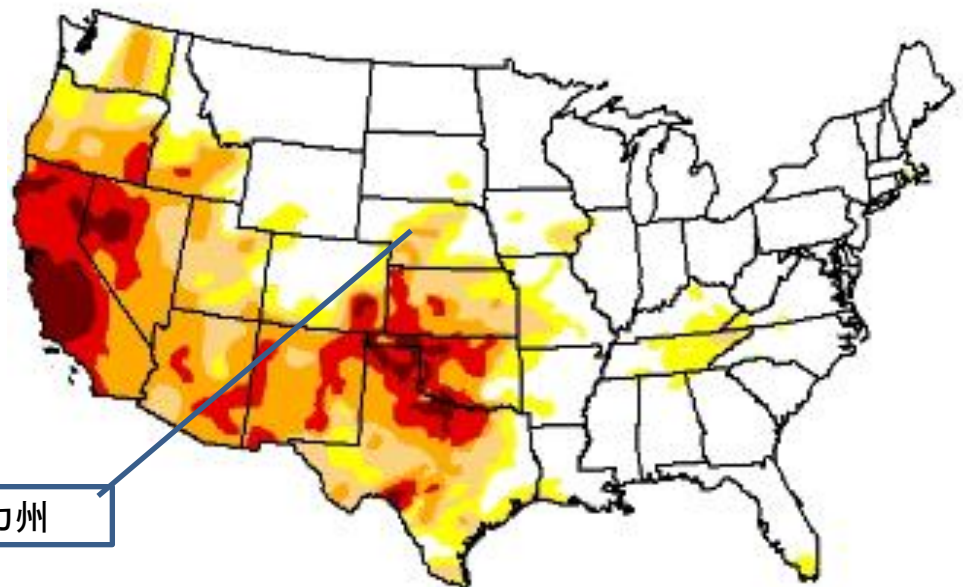
- 2014年6月時点での干ばつの影響は、干ばつの被害が大きかった2012年と比べると中西部では多くの地域で改善されている状況。
- 全米第3位の生産量を誇るネブラスカ州の一部では、乾燥や干ばつの影響が継続している地域が見受けられる。

2012年8月



■ 異常乾燥 ■ 干ばつ ■ 深刻な干ばつ ■ 特に深刻な干ばつ ■ 異常な干ばつ

2014年6月



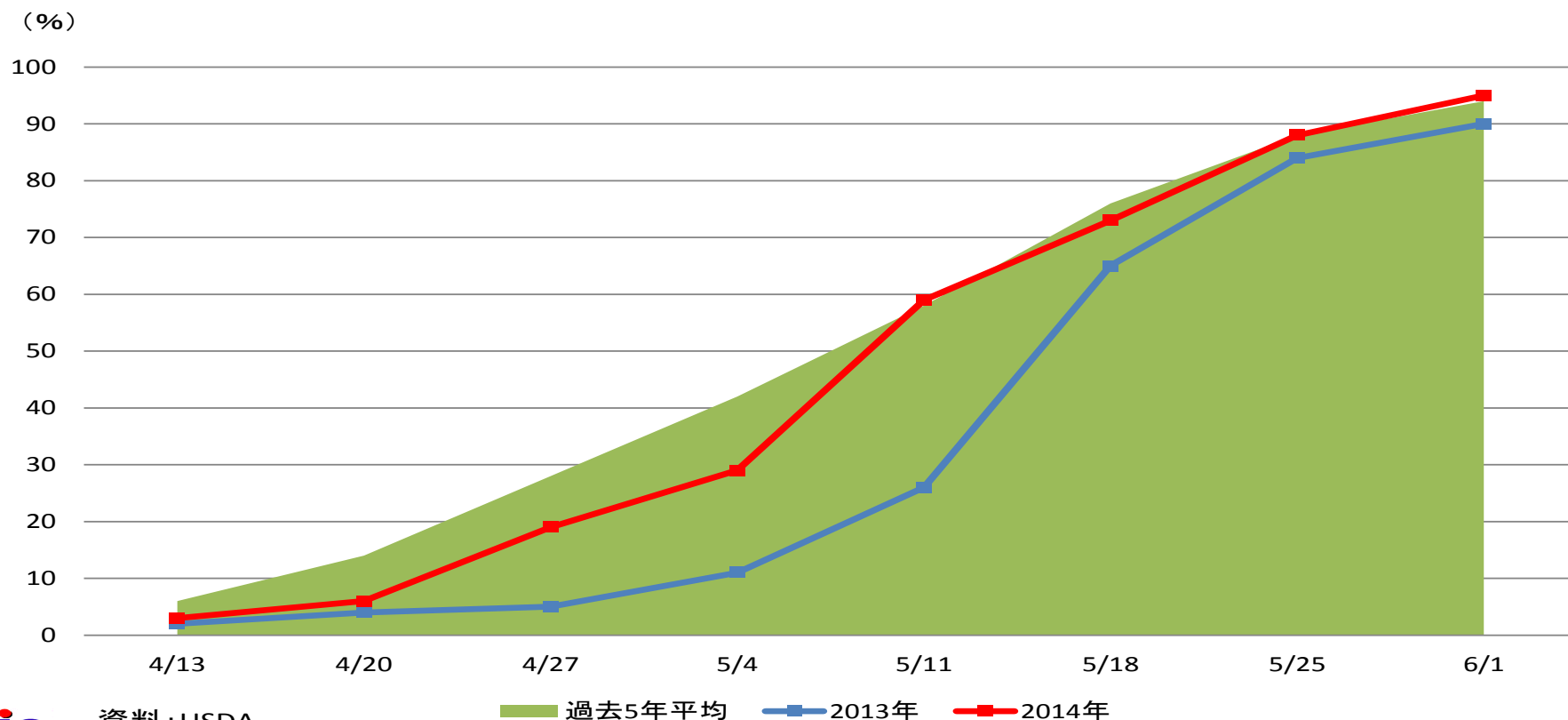
ネブラスカ州

資料: Drought monitor

3 トウモロコシ作付け進捗率の推移

ポイント

- 2014／15年度(9月～翌8月)のトウモロコシの作付進捗率は、4月から5月中旬までは過去5年平均を下回っていたものの、その後、急速に進展。
- 2014年／15年度の作付状況は全米で95%(6月1日)となり、前年同時期を5ポイント上回り、作付け当初としては好調なスタート。



4 トウモロコシの生育状況

ネブラスカ州



アイオワ州

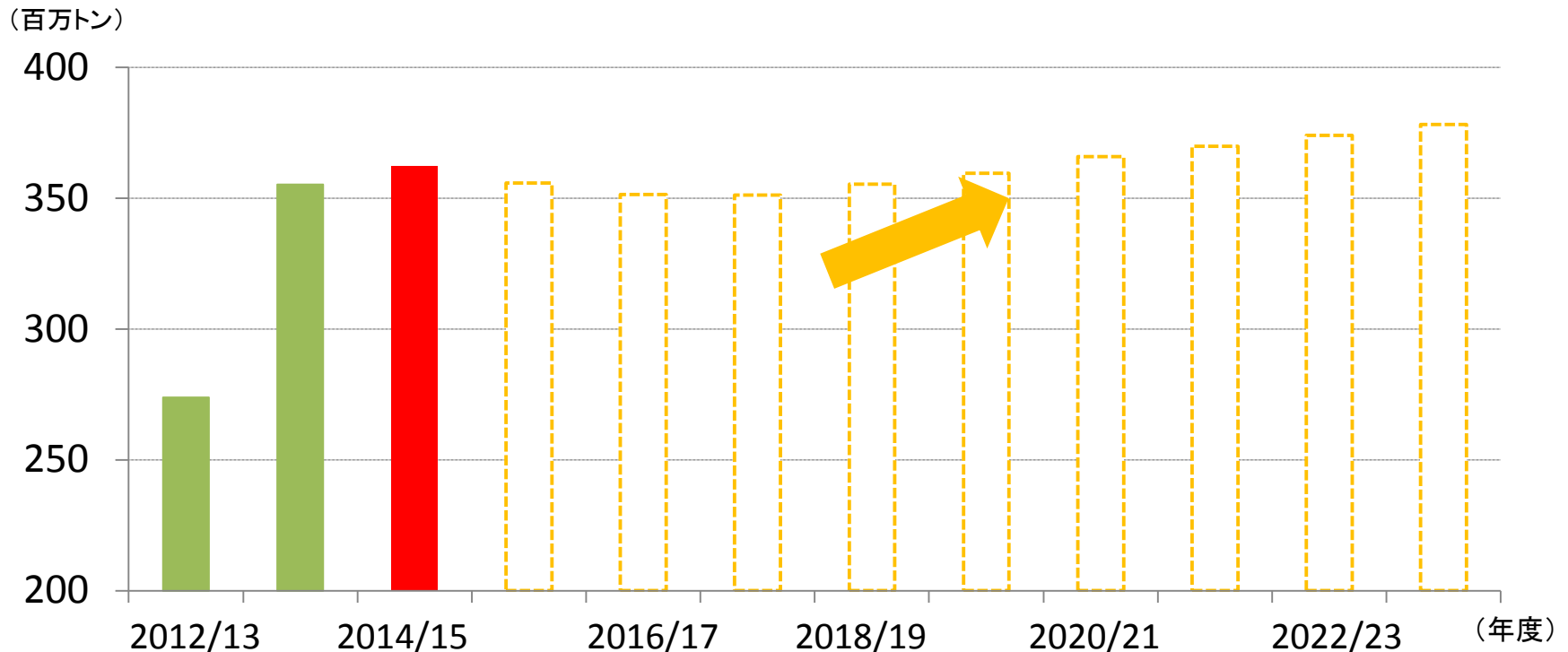


2014年6月第1週目の現地状況

5 トウモロコシの生産見通し(2014年2月USDA公表)

ポイント

- 2014／15年度のトウモロコシ生産量は、増産に伴う価格安により大豆への転作が見込まれることから、わずかに増産見通し。
- トウモロコシ生産量は、輸出や飼料向けなどの消費量の増加が見込まれることから2018年以降増産傾向となり、2023／24年度には3億8000万トンに達する見通し。



資料: USDA

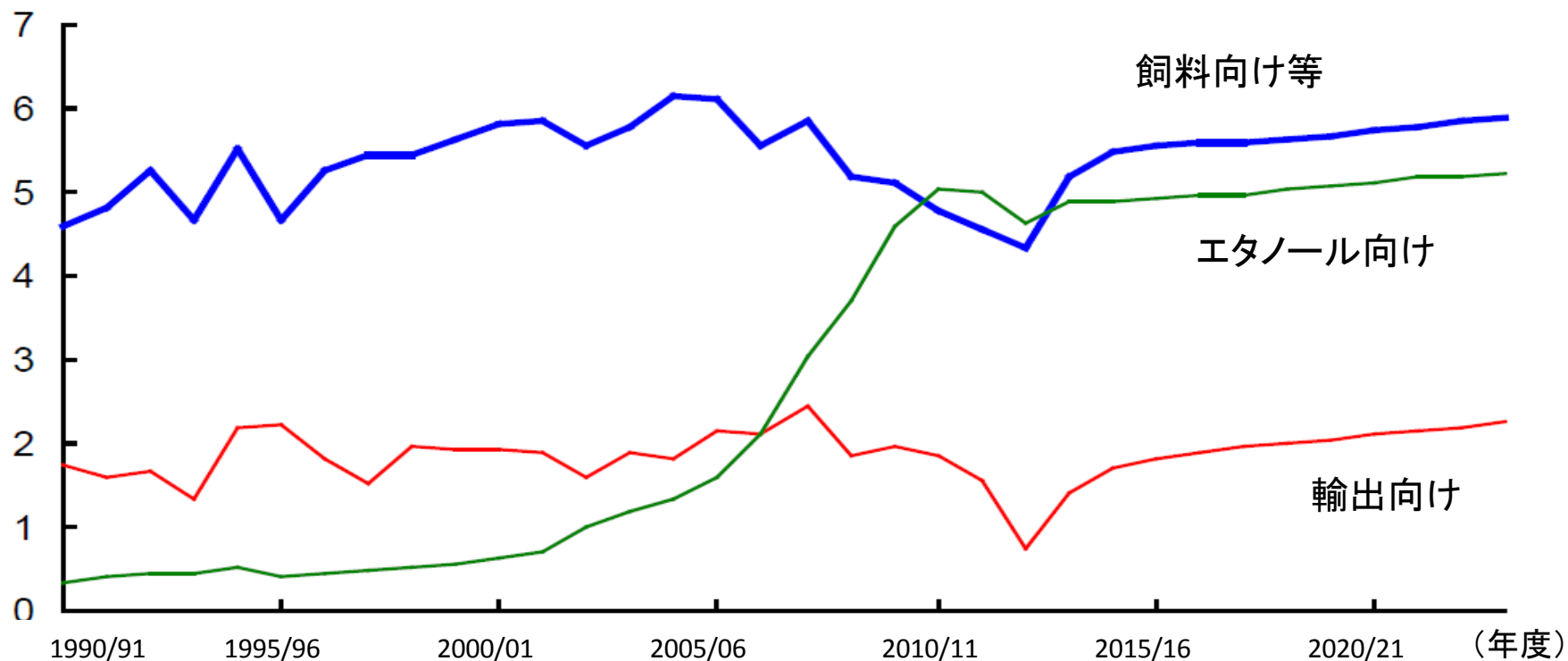
注: 2014年は見込み、2015年以降は予測値

6 トウモロコシの消費見通し(2014年2月USDA公表)

ポイント

- トウモロコシの消費量は、全ての用途向けで増加を見込む。
- 輸出向けは、食肉需要の増加が著しい中国で今後トウモロコシ輸入量の増加が見込まれることから、増加の見通し。
- 飼料向けは、2017年以降の牛肉生産増などが見込まれることで、増加の見通し。

(10億ブッシェル)



資料: USDA

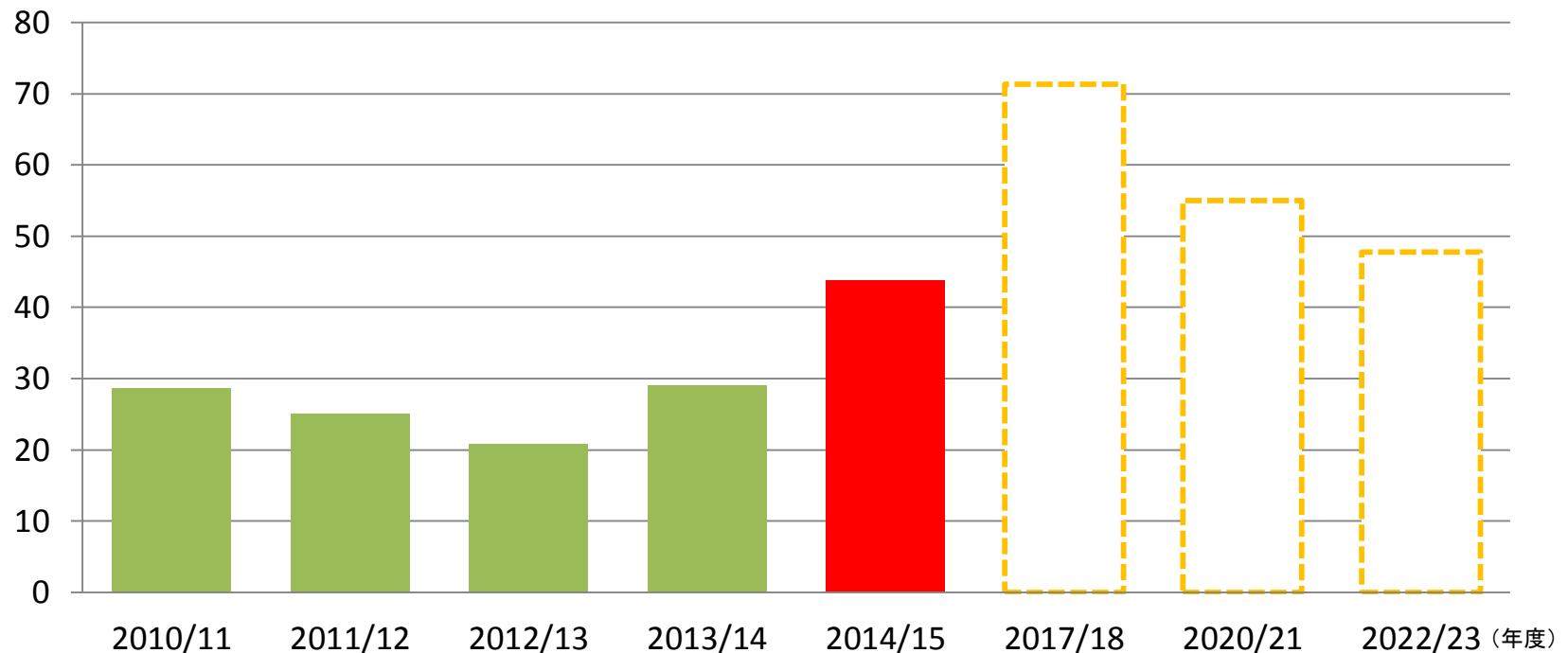
注: 2014年は見込み、2015年以降は予測値

7 トウモロコシの在庫見通し(2014年2月USDA公表)

ポイント

- トウモロコシの在庫量は、2012／13年度の干ばつによる減産により過去最低水準となったものの、2013/14年度は豊作により増加。
- 長期的なトレンドでは、トウモロコシ在庫量は、豊作となった場合、2017／18年度に過去最高の水準に達するとの見通し。

(百万トン)



資料:USDA

注:2014年は見込み、2015年以降は予測値

8 トウモロコシの需給見通し

ポイント

- 米国農務省の2014/15年度のトウモロコシの生産見通しは、作付け面積が減少するも単収増により、前年をわずかに上回る3億5390万トンと予測。
- 2年連続の増産により、期末在庫率は12.9%へ上昇し、生産者平均販売価格は前年よりやや低めで推移するものと予測。

区 分	— 単位 —	2012/13	2013/14	2014/15	前年比 (増減率)
			(推測値)	(6月予測)	
トウモロコシ					
作付面積	(万ヘクタール)	39.3	38.6	37.1	▲ 3.9%
単収	(トン/ヘクタール)	7.7	10.0	10.4	4.1%
国内生産量	(百万トン)	273.8	353.7	353.9	0.1%
国内消費量	(百万トン)	263.6	298.1	296.8	▲ 0.4%
飼料等向け	(百万トン)	110.0	134.6	133.4	▲ 0.9%
エタノール向け	(百万トン)	118.1	128.3	128.3	0.0%
輸出量	(百万トン)	18.6	48.3	43.2	▲ 10.5%
期末在庫	(百万トン)	20.9	29.1	43.8	50.6%
期末在庫率	(%)	7.4	8.4	12.9	53.4%
生産者平均販売価格	(ドル/ブッシェル)	6.89	4.45-4.65	3.85-4.55	▲13.5%-2.2%

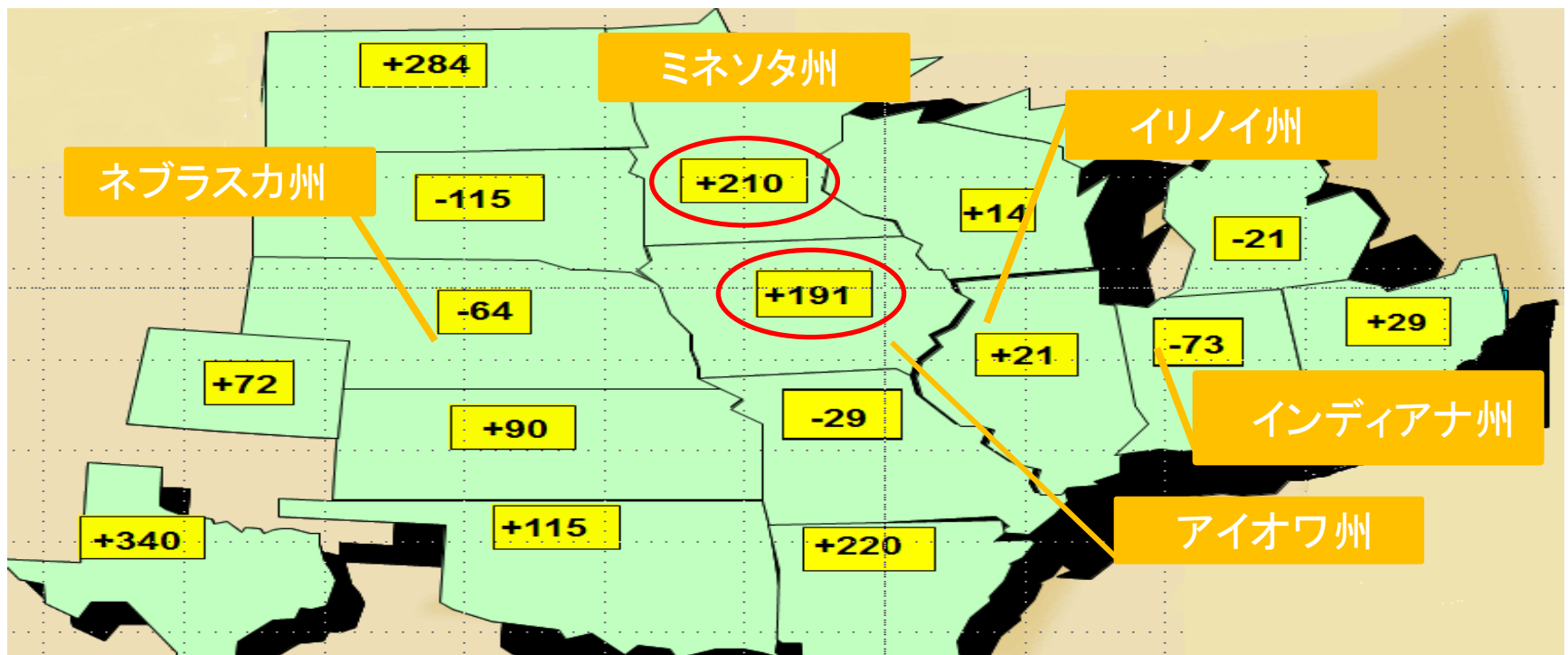
資料: USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注: 年度は、各年9月～翌8月

9 主要生産州におけるトウモロコシの在庫状況

ポイント

- 輸出向けが好調に推移する中、主要生産州の一部ではトウモロコシの在庫量が増加。
- 特にトウモロコシ輸送で、鉄道利用が中心であるミネソタ州やアイオワ州北部では、現在、多くが利益の高い石油輸送と競合。
- この影響を受け、同2州のトウモロコシ在庫量は前年同月と比べ大幅に増加。

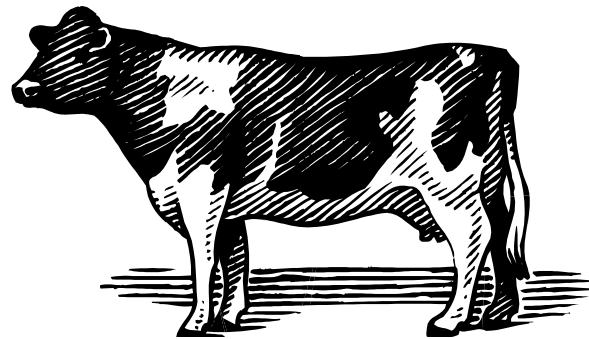


資料: アドバンス・トレーディング社

注1: 単位はパーセント表示

注2: 各州の数字は、2013年6月6日から2014年6月6日までの増減率を示す

乳製品の需給見通し

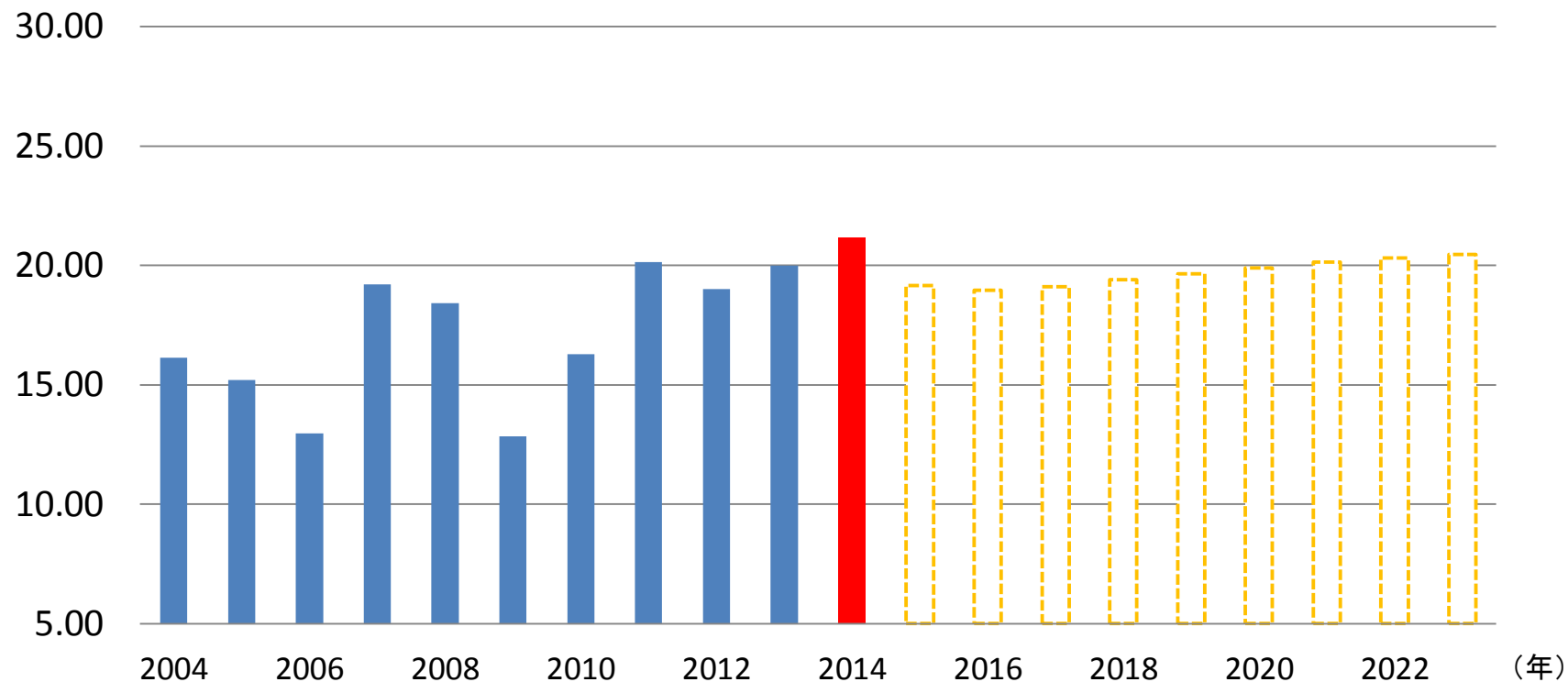


1 生乳価格の見通し

ポイント

- 生乳価格は、国際価格の高まりと国内外の乳製品需要の増加により、2009年以降、高水準。
- 2014年は、国内を中心とした堅調な需要見込みから、引き続き高水準と予測。
- 長期的なトレンドでは、2017年以降、乳製品需要の増加を背景に上昇傾向で推移。

(ドル／100ポンド)



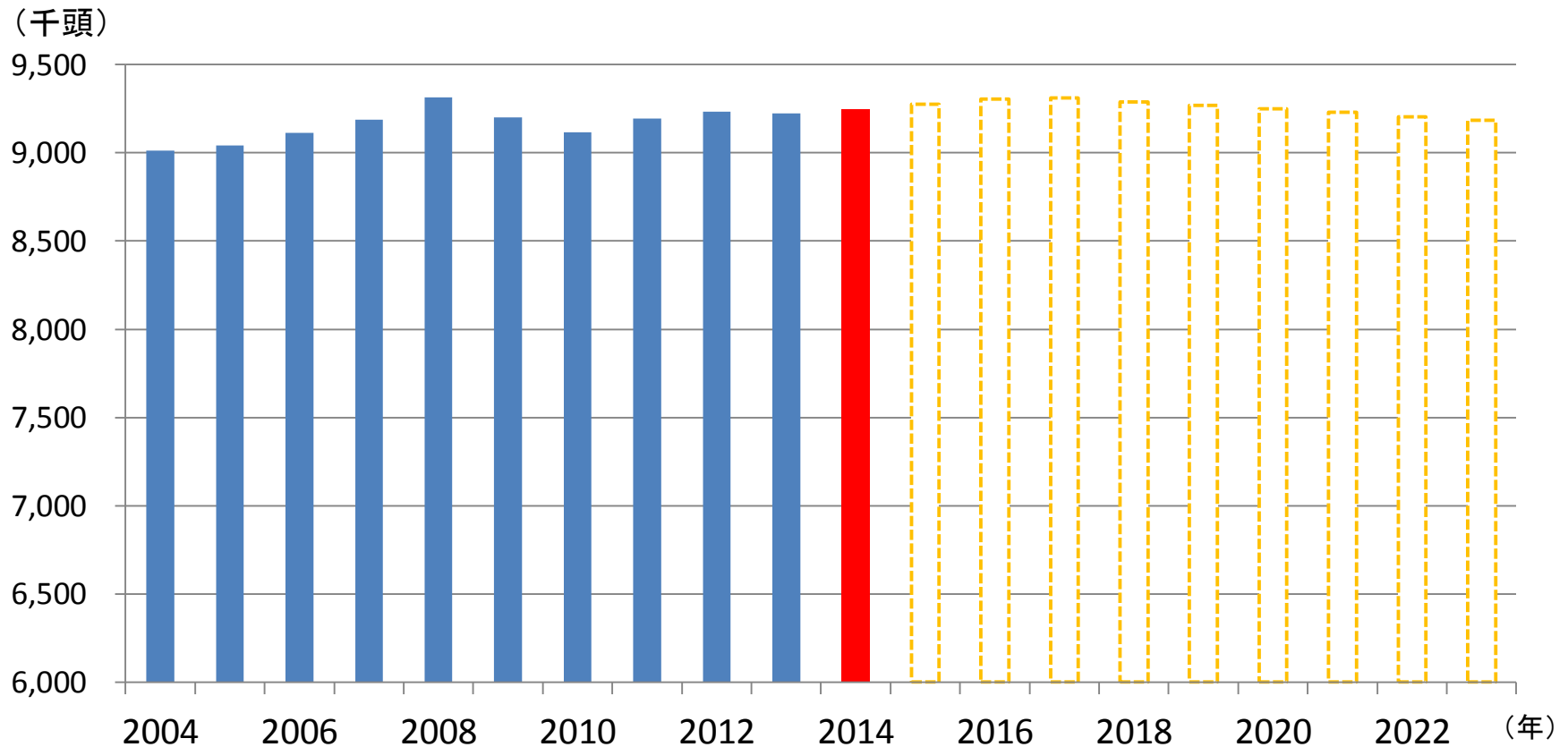
資料: USDA

注: 2014年は見込み、2015年以降は予測値

2 乳牛飼養頭数の見通し

ポイント

- 乳牛飼養頭数は、好調な生乳価格や飼料価格の下落により、2017年まで増頭傾向で推移。
- 2014年の乳牛飼養頭数は、前年をわずかに上回る935万頭の見込み。



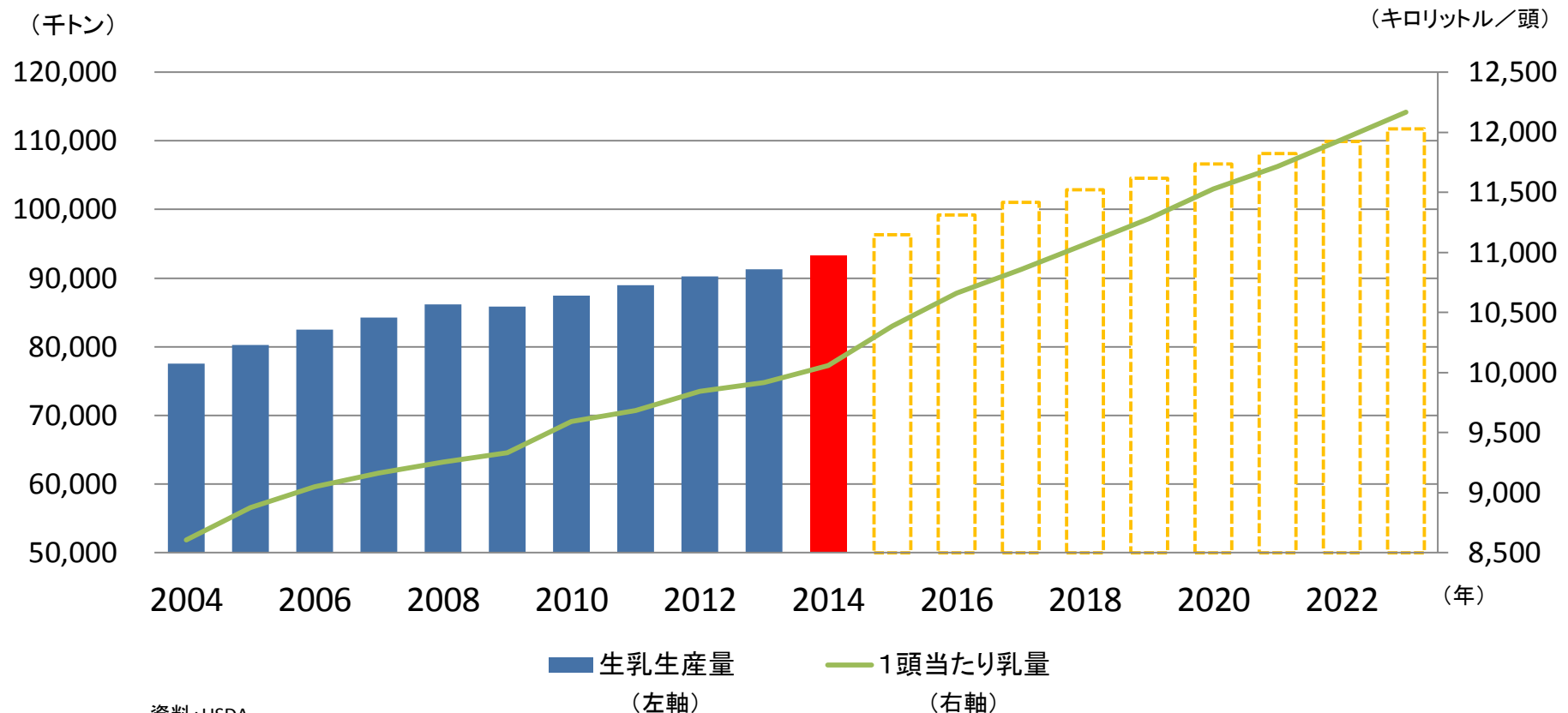
資料: USDA

注: 2014年は見込み、2015年以降は予測値

3 生乳の生産見通し

ポイント

- 生乳生産量は、好調な生乳価格を背景に増産傾向で推移。
- 2014年の生乳生産量は、乳牛頭数および1頭当たり乳量の増加により、前年比2.2%増の9330万トンの見込み。



資料: USDA

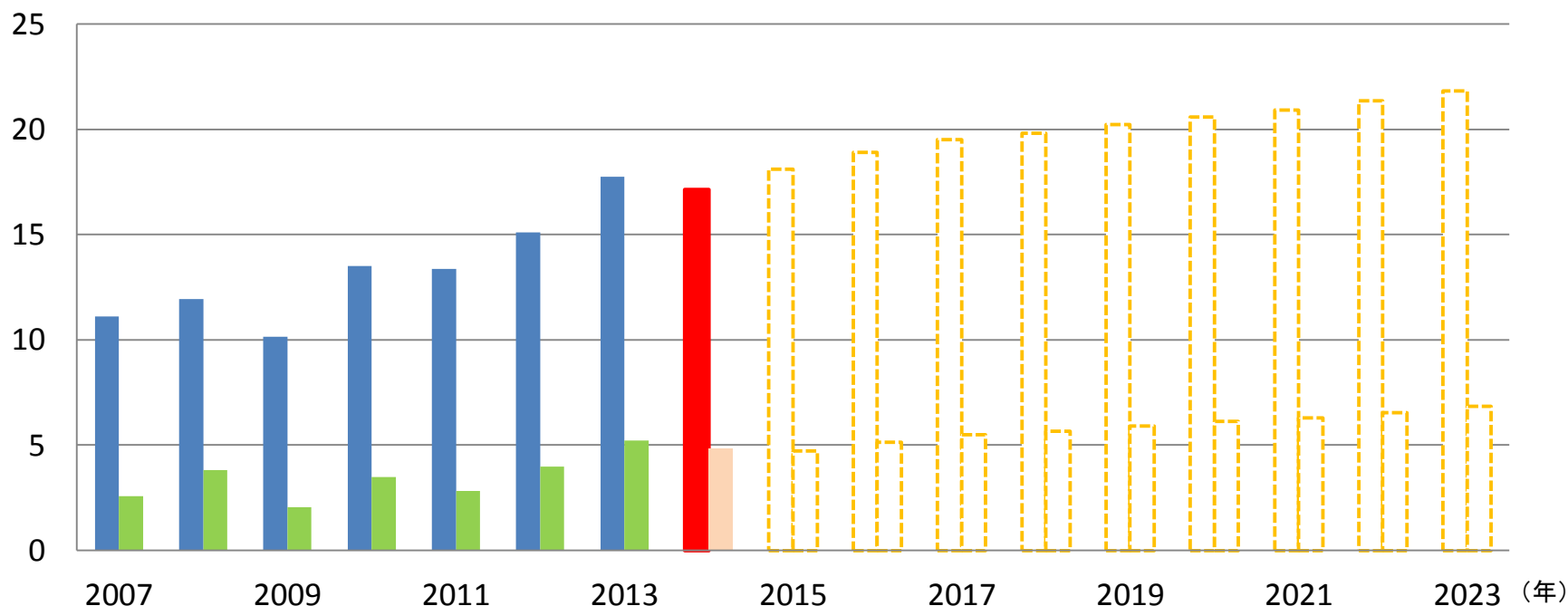
注: 2014年は見込み、2015年以降は予測値

4 乳製品の輸出見通し

ポイント

- 乳製品の特徴として、主に国内向けを中心としており、余剰分が輸出に向けられる傾向。
- 2014年の乳製品の輸出は、国内の乳製品需要の増加や欧州および豪州の乳製品輸出の増加により、減少の見通し。

(100万トン)



資料: USDA

注1: 2014年は見込み、2015年以降予測値

注2: 2007年以前の数値は、公表なし

■ 無脂乳
(例: 脱脂粉乳など)

■ 乳脂肪
(例: バターなど)

まとめ

- ① 2014年の米国の牛肉生産量は、前年比5.3%減の約1100万トンの見通し。
- ② 同年の肉牛飼養頭数は、今後、放牧環境の回復が継続した場合、早くて2017年以降、肉牛飼養頭数が増加し、それに 伴い牛肉生産量は増加。
- ③ 2014年のトウモロコシの生産量は、作付け面積は減少となるも単収の増加により、前年をわずかに上回る3億5390万トンの見通し。
- ④ 同年のトウモロコシの在庫量は、この豊作見通しにより同50.6%増の4380万トンの見込み。
- ⑤ 2014年の米国の生乳生産量は、乳牛頭数および一頭当たり乳量の増加により、増産見通し。
- ⑥ 同年の乳製品の輸出量は、主に国内需要の増加により、減少見通し。



ご静聴、ありがとうございました。

本情報は、情報提供を目的とするものであり、取引・投資判断の基礎とすることを目的としていません。本資料の正確性の確認等は、各個人の責任と判断をお願いします。提供した情報の利用に関連して、万が一、不利益が被る事態等が生じたとしても、ALICは一切の責任を負いません。